

事前評価書

都道府県名	神奈川県	関係市町村	横須賀市
-------	------	-------	------

事業名	水産物供給基盤整備事業（水産流通基盤整備事業）		
地区名	ナガイ 長井	事業主体	横須賀市

I 基本事項

1. 地区概要				
漁港名（種別）	長井漁港（第2種）		漁場名	—
陸揚金額	668	百万円	陸揚量	2,975.4 トン
登録漁船隻数	292	隻	利用漁船隻数	311 隻
主な漁業種類	大型定置網、刺し網、沿岸かつお一本釣り、採藻		主な魚種	いわし、あじ、さば、かつお、ぶり、ひじき、さざえ
漁業経営体数	133	経営体	組合員数	286 人
地区の特徴	長井漁港のある横須賀市の西海岸は神奈川県東部の三浦半島に位置し、周辺沿岸は砂浜や岩礁など変化に富んだ地形を形成するとともに、沖合の好漁場にも恵まれ、大型定置網、刺し網、一本釣り、採藻、たこつぼなど多様な漁業が営まれている。 長井漁港は大消費地である首都圏に近いという立地条件から、新鮮な地魚の供給基地としての役割を担っており、産地市場を有する水産物の流通拠点となっている。			
2. 事業概要				
事業目的	本港・漆山・荒井地区では、外郭施設の不足により、港内が荒れやすく、出漁機会の制限や効率の悪い出荷調整を強いられるなど漁業に支障が生じている。また、本港地区の荷捌き施設は、老朽化による天井部コンクリートの剥落や塗装のはがれ等が生じ、衛生的な環境が確保されていない状況である。このため、長井漁港では、相模湾東部圏域の流通拠点漁港として、荷さばき所の衛生管理対策（他事業）と連携し、外郭施設の整備による出漁機会の増大及び出荷調整水域の拡大を図るとともに、安全・安心な水産物の安定的な供給や販路の拡大、水産物の価格形成能力の向上など流通機能の高度化を目指すものである。			
主要工事計画	本港地区：(1)防波堤(改良) L=54.9m、(1)護岸(改良) L=89.5m、船揚場(改良) L=100m 漆山地区：(1)波除堤(改良) L=50m、(2)防波堤(改良) L=70m、(2)波除堤(改良) L=32.9m、(3)波除堤(改良) L=10.3m、(2)護岸(改良) L=54m、(3)護岸(改良) L=26m、 荒井地区：(3)防波堤(改良) L=50m、(4)防波堤 L=40m、(4)波除堤(改良) L=19.2m			
事業費	1,011百万円		事業期間	平成31年度～平成40年度

Ⅱ 必須項目

1. 事業の必要性		
①長井漁港は、三浦半島相模湾東部圏域において第2位の総水揚げ高を誇り、当該圏域の三崎漁港を補完する流通拠点漁港であるとともに、県内水産業及び県外への出荷拠点としての中心的な役割を担っている。 ②しかし、本港・漆山・荒井地区では、港口や港内の静穏度が確保されていないため、出漁機会の制限や効率の悪い出荷調整を強いられるなど漁業に支障が生じている。また、長井漁港は、災害時における水産物の流通機能を確保した流通拠点漁港としての役割も期待されている。 ③このため、本港・漆山・荒井地区の外郭施設整備を行い、効率的で安心・安全な漁業活動を確保するとともに、安定的な水産物の供給、流通機能の強化を図る必要がある。		
2. 事業採択要件		
① 計画事業費	1,011,290千円	(採択要件：500,000千円以上)
② 漁港種別	第2種漁港	(昭和27年1月に指定)
③ 利用漁船数	311隻(平成28年)	(採択要件：200隻以上)
3. 事業を実施するために必要な基本的な調査		
(1) 利用面、防護面、施工面等から適切な位置を選定するための地理的条件、自然条件に関する基本的な調査		
外郭施設の配置決定にあたって、漁業者へのヒアリング調査により航路の位置や周辺水域の利用状況等を把握するとともに、シミュレーションによる波浪推算を行っている。		
(2) 施設の利用の見込み等に関する基本的な調査		
基本的な漁港港勢(漁船隻数、陸揚量、組合員数など)について将来予測を行い、係船岸や用地についての充足率を確認している。また、荒天時における岸壁の利用可能な延長を把握するため、港内静穏度調査を実施している。		
(3) 自然環境、生活環境等の周辺環境及びそれに与える影響の把握		
毎年、本港地区の取水海水等について水産用水基準に定める5項目(ph、SS、COD等)を対象とした水質調査を実施している。		
4. 事業を実施するために必要な調整		
(1) 地元漁業者、地元住民等との調整		
長井町漁業協同組合を通じてヒアリング調査や現地立会いを実施し、地元漁業者とは調整済みである。		
(2) 関係都道府県、関係市町村、関係部局(隣接海岸、道路、河川、港湾、環境等)との事前調整		
神奈川県環境農政局水産課とは、事前調整済みである。		
5. 事業の投資効果が十分見込まれること		
費用便益比 B/C :	1.24	※別紙「費用対効果分析集計表」のとおり

Ⅲ 優先配慮項目

分類項目				評価指標	評価
大項目	中項目		小項目		
有効性	生産力の向上と力強い産地づくり	生産	水産資源の保護・回復	水産資源の維持・保全	—
				資源管理諸施策との連携	—
			漁家経営の安定 （水産物の安定供給）	生産量の増産（持続・増産・下降抑制）	—
				生産コストの縮減等（効率化・計画性 の向上）	B
			水域環境の保全・創造	水質・底質の維持・改善	—
				環境保全効果の持続的な発揮	—
		陸揚げ荷捌き集出荷流通加工	安全・安心な水産物提供	品質確保	—
				消費者への安定提供	A
			漁業活動の効率化	漁港機能の強化	B
			労働環境の向上	就労改善等	A
		生活	生活者の安全・安心確保	定期船の安定運航	—
				災害時の緊急対応	B
		漁業の成長産業化	漁業の生産性向上	生産量等の拡大・安定化や効率化等	—
			水産物流通に与える効果	水産物流通量等の拡大・安定化や効率化、水産物の販路や輸出拡大等	B
	地域経済に与える効果		加工場等関連産業の集積、雇用者数増加、交流人口の増加等	—	
効率性	コスト縮減対策			計画時におけるコスト縮減対策の検討	B
事業の実施環境等	他計画との整合			地域の水産関連計画等との整合性及び地元調整	A
	他事業との調整・連携			他事業との調整・連携	B
	循環型社会の構築			リサイクルの促進等	A
	環境への配慮			生態系への配慮等	B
	多面的機能発揮に向けた配慮			多面的機能の発揮	B

Ⅳ 総合評価

当該地区は、首都圏へ水産物を供給する流通の拠点として重要な役割を担っているが、外郭施設の不足により港内が荒れやすく、出漁機会の制限や効率の悪い出荷調整を強いられるなど漁業に支障が生じている。また、本港地区の荷捌き施設は、老朽化による天井部コンクリートの剥落や塗装のはがれ等が生じ、衛生的な環境が確保されていない状況である。

当該事業は、他事業による衛生管理対策と連携し、外郭施設の整備による出漁機会の増大及び出荷調整水域の拡大を図り、安全・安心な水産物の安定的な供給など流通機能の高度化を目指すものであり、費用便益比率も1を超えていることから、事業の実施は妥当であると判断される。

多段階評価の評価根拠について

都道府県名:神奈川県

地区名:長井

分類項目			評価指標	評価根拠	評価
大項目	中項目	小項目			
有効性	生産力の向上と力強い産地づくり	生産	水産資源の維持・保全	該当無し	—
			資源管理諸施策との連携	該当無し	—
			生産量の増産(持続・増産・下降抑制)	該当無し	—
			生産コストの削減等(効率化・計画性の向上)	外郭施設の整備により、沖合の防波堤背後の出荷調整水域の静穏度が向上し、海象条件に左右されない効率的な出荷調整が期待されることから「B」と評価した。	B
			水質・底質の維持・改善	該当無し	—
			環境保全効果の持続的な発揮	該当無し	—
		陸揚げ荷捌き集出荷流通加工	安全・安心な水産物提供	品質確保	該当無し
			消費者への安定提供	外郭施設の整備により、防波堤の背後に確保される静穏な水域を出荷調整水域として活用することで、県内の2割の陸揚げ量を占めるサザエの安定供給が可能になることから「A」と評価した。	A
			漁業活動の効率化	相模湾東部圏域の流通拠点漁港として、外郭施設の整備による出漁機会の増大及び出荷調整区域の拡大を図るなど、流通機能の高度化が期待されるため「B」と評価した。	B
			労働環境の向上	外郭施設の整備により高潮被害を軽減し、漁港および背後地の漁業関係者の財産の保全に資すること。また、舟揚げ場の整備により身体的負担の少ない沿岸漁業を推進することで、高齢の漁業者も漁業を続けられる環境が整備されることから「A」と評価した。	A
		生活	生活者の安全・安心確保	定期船の安定運航	該当無し
			災害時の緊急対応	本港地区の制震・耐津波化の対策を進めるとともに、BCP計画の策定を推進することにより、地域防災協議会が組織され漁港を中心とした効率的かつ効果的な防災活動が期待されるため「B」と評価した。	B
	漁業の成長産業化	漁業の生産性向上	生産量等の拡大・安定化や効率化等	該当無し	—
		水産物流通に与える効果	水産物流通量等の拡大・安定化や効率化、水産物の販路や輸出拡大等	外郭施設の整備により、出漁機会の増大や出荷調整水域の拡大が図られることで、水産物の安定的な供給や販路の拡大が期待される。また、具体的な目標として、水揚げ金額10%向上が設定されていることから「B」評価とした。	B
		地域経済に与える効果	加工場等関連産業の集積、雇用者数増加、交流人口の増加等	該当無し	—
効率性	コスト削減対策		計画時におけるコスト削減対策の検討	外郭施設の整備により、既設防波堤背後に確保される静穏な水域を出荷調整水域として有効活用する計画であるため「B」評価とした。	B
事業の実施環境等	他計画との整合		地域の水産関連計画等との整合性及び地元調整	本市の海洋都市構想(水産業の6次産業化、朝市によるにぎわいの創出等)による海を活用したまちづくり)に関する計画、施策をまとめた「横須賀市再興プラン」の推進につながるものと期待されることから「A」と評価した。	A
	他事業との調整・連携		他事業との調整・連携	他事業による衛生管理対策と連携し、外郭施設整備による出漁機会の増大等を図ることで、安全・安心な水産物の安定供給など流通機能の高度化が期待されることから「B」評価とした。	B
	循環型社会の構築		リサイクルの促進等	工実実施に係る物品の調達に際しては、横須賀市グリーン購入基本方針に基づき、環境負荷の低減に資する原材料の利活用に努め、現場発生品の再資源化、産業廃棄物の適正な処分を行うことにより環境保全に資することが期待できることから「A」と評価した。	A
	環境への配慮		生態系への配慮等	事業の実施にあたっては、自然環境に配慮し影響が予測される場合は、必要に応じてその低減に努めることとしているため「B」評価とした。	B
	多面的機能発揮に向けた配慮		多面的機能の発揮	漆山・荒井地区の外郭施設整備は、漁港背後の道路や住宅への越波・浸水被害の低減につながることを期待されるため「B」評価とした。	B

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	神奈川県	地区名	長井
事業名	水産流通基盤整備事業	施設の耐用年数	50年

2 評価項目

便益の 評価項目 及び 便益額	評価項目		便益額（現在価値化）	
	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	667,281	千円
		②漁獲機会の増大効果	280,876	千円
		③漁獲可能資源の維持・培養効果		千円
		④漁獲物付加価値化の効果		千円
	漁業就労環境の向上	⑤漁業就業者の労働環境改善効果	10,371	千円
	生活環境の向上	⑥生活環境の改善効果		千円
	地域産業の活性化	⑦漁業外産業への効果		千円
	非常時・緊急時の対処	⑧生命・財産保全・防御効果		千円
		⑨避難・救助・災害対策効果		千円
	自然保全・文化の継承	⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
	その他	⑬漁港利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
	計（総便益額） B		958,533	千円
	総費用額（現在価値化） C		773,734	千円
	費用便益比 B / C		1.24	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

- ・(1)防波堤及び(1)護岸の改良（耐震・耐津波化）により、災害時における水産物流通の機能が確保される。
- ・生産労働作業の効率化、快適性向上により、青年層の新規参入の継続が期待できる。

水産流通基盤整備事業 長井地区 事業概要図

【整理番号2】



●事業主体：横須賀市

●主要工事計画

- (1) 防波堤(改良) 54.9m
- (2) 防波堤(改良) 70.0m
- (3) 防波堤(改良) 50.0m
- (4) 防波堤(新設) 40.0m
- (1) 波除堤(改良) 50.0m
- (2) 波除堤(改良) 32.9m
- (3) 波除堤(改良) 10.3m
- (4) 波除堤(改良) 19.2m
- (1) 護岸(改良) 89.5m
- (2) 護岸(改良) 54.0m
- (3) 護岸(改良) 26.0m
- (1) 船揚場(改良) 100.0m

●事業費 : 1,011百万円

●事業期間 : H31～H40



長井地区 水産流通基盤整備事業の効用に関する説明資料

1. 事業概要

- (1) 事業目的 : 相模湾東部圏域の流通拠点である長井漁港の本港・漆山・荒井地区では、外郭施設の不足により港内が荒れやすく、出漁機会が制限されるほか、出荷調整に必要な静穏な蓄養水面が確保できず、サザエ・アワビ等の安定的な出荷体制の確保に支障が生じている。このため、防波堤等の外郭施設の整備によって港内静穏度の向上を図り、出漁機会の増大や出荷調整用蓄養水面の拡大によって安心・安全な水産物の安定供給など流通機能の高度化を目指す。また、災害時における流通機能を確保するため、本港地区の主要な外郭施設について耐震・耐津波化を図る。

漆山・荒井地区では、荒天時の港内への越波・越流により漁港用地の漁具等が漂流・散乱する被害が発生し、円滑な漁業活動に支障をきたしていることから、護岸及び波除堤を整備する。

- (2) 主要工事計画 : <本港地区>

(1) 防波堤(改良)54.9m、(1) 護岸(改良)89.5m、船揚場(改良)100m

<漆山地区>

(2) 防波堤(改良)70m、

(1) 波除堤(改良)50m、(2) 波除堤(改良)32.9m、(3) 波除堤(改良)10.3m

(2) 護岸(改良)54m、(3) 護岸(改良)26m

<荒井地区>

(3) 防波堤(改良)50m、(4) 防波堤40m、(4) 波除堤(改良)19.2m

- (3) 事業費 : 1, 0 1 1 百万円

- (4) 工期 : 平成31年度～平成40年度

2. 総費用便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

「水産基盤整備事業費用対効果分析ガイドライン」（平成29年4月改訂 水産庁）及び同「参考資料」（平成30年5月改訂 水産庁）等に基づき算定

区分	算定式	数値
総費用（現在価値化）	①	773,734
総便益額（現在価値化）	②	958,533
総費用総便益比	②÷①	1.24

(2) 総費用の総括

施設名	整備規模	事業費（千円）
(1)防波堤(改良)	L= 54.9m	175,650
(2)防波堤(改良)	L= 70.0m	174,300
(3)防波堤(改良)	L= 50.0m	136,150
(4)防波堤	L= 40.0m	114,840
(1)波除堤(改良)	L= 50.0m	51,450
(2)波除堤(改良)	L= 32.9m	34,930
(3)波除堤(改良)	L= 10.3m	12,550
(4)波除堤(改良)	L= 19.2m	26,130
(1)護岸(改良)	L= 89.5m	92,520
(2)護岸(改良)	L= 54.0m	73,770
(3)護岸(改良)	L= 26.0m	30,500
船揚場	L= 100.0m	88,500
計		1,011,290
維持管理費等		60,000
総費用（消費税込）		1,071,290
内、消費税額		79,359
総費用（消費税抜）		991,931
現在価値化後の総費用		773,734

(3) 年間標準便益

効果項目	年間標準便益額 (千円)	効果の要因
水産物生産コストの削減効果	38,641	・防波堤等の整備に伴う漁船避難作業時間の短縮 ・護岸の整備に伴う労働時間の短縮効果 ・防波堤等の整備に伴う労務時間の短縮効果 ・船揚場の整備に伴う労務時間短縮効果 ・防波堤等の整備に伴う漁船避難経費の削減 ・防波堤等の整備に伴う漁船耐用年数の延長
漁獲機会の増大効果	16,624	・防波堤等の整備に伴う出漁可能回数の増加効果
漁業就業者の労働環境改善効果	665	・漁港施設整備による労働環境の改善
計	55,930	

(4) 費用及び便益の現在価値算定表

評価期間	年度	割引率 ①	デフレータ ②	費用（千円）			便益（千円）				
				事業費 (維持管理費含む)	事業費 (税抜)	現在価値 (維持管理費含む)	水産物 生産コスト 削減効果	漁獲機会の 増大効果	漁業就業者 の労働環境 改善効果	計	現在価値 (千円)
					③	①×②×③				④	①×④
1	31	0.962	1.000	54,000	50,000	48,100					
2	32	0.925	1.000	110,945	102,727	95,022					
3	33	0.889	1.000	112,365	104,042	92,493					
4	34	0.855	1.000	112,450	104,120	89,023	9,182	3,313	45	12,540	10,722
5	35	0.822	1.000	114,100	105,648	86,843	9,182	3,313	45	12,540	10,308
6	36	0.790	1.000	105,920	98,074	77,478	27,051	11,083	105	38,239	30,209
7	37	0.760	1.000	93,660	86,722	65,909	27,051	11,083	105	38,239	29,062
8	38	0.731	1.000	90,940	84,204	61,553	28,217	11,083	105	39,405	28,805
9	39	0.703	1.000	113,350	104,954	73,783	28,716	11,083	105	39,904	28,053
10	40	0.676	1.000	108,450	100,417	67,882	38,641	11,083	665	50,389	34,063
11	41	0.650	1.000	1,200	1,111	722	38,641	16,624	665	55,930	36,355
12	42	0.625	1.000	1,200	1,111	694	38,641	16,624	665	55,930	34,956
13	43	0.601	1.000	1,200	1,111	668	38,641	16,624	665	55,930	33,614
14	44	0.577	1.000	1,200	1,111	641	38,641	16,624	665	55,930	32,272
15	45	0.555	1.000	1,200	1,111	617	38,641	16,624	665	55,930	31,041
47	77	0.158	1.000	1,200	1,111	176	38,641	16,624	665	55,930	8,837
48	78	0.152	1.000	1,200	1,111	169	38,641	16,624	665	55,930	8,501
49	79	0.146	1.000	1,200	1,111	162	38,641	16,624	665	55,930	8,166
50	80	0.141	1.000	1,200	1,111	157	38,641	16,624	665	55,930	7,886
51	81	0.135	1.000	1,200	1,111	150	38,641	16,624	665	55,930	7,551
52	82	0.130	1.000	1,200	1,111	144	38,641	16,624	665	55,930	7,271
53	83	0.125	1.000	1,010	935	117	38,641	16,624	665	55,930	6,991
54	84	0.120	1.000	800	741	89	29,459	13,311	620	43,390	5,207
55	85	0.116	1.000	800	741	86	29,459	13,311	620	43,390	5,033
56	86	0.111	1.000	580	537	60	10,424	5,541	560	16,525	1,834
57	87	0.107	1.000	520	481	51	10,424	5,541	560	16,525	1,768
58	88	0.103	1.000	500	463	48	10,424	5,541	560	16,525	1,702
59	89	0.099	1.000	480	444	44	9,925	5,541	560	16,026	1,587
60	90	0.095	1.000	20	19	2		5,541		5,541	526
計				1,071,290	991,931	773,734	計				958,533

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3. 効果額の算定方法

(1) 水産物生産コストの削減効果

1) 防波堤等の整備に伴う漁船避難作業時間の短縮

【漆山地区：他港避難】

区分		備考
作業員数（人）〔乗船〕	① 1	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業員数（人）〔送迎車〕	② 1	
送迎車数（台）	③ 1	
漁船隻数（隻）〔3～5t未満〕	④ 21	
避難回数（回）〔整備前〕	⑤ 10	
避難回数（回）〔整備後〕	⑥ 0	
移動時間（時間）〔整備前〕	⑦ 2.5	
移動時間（時間）〔整備後〕	⑧ 0	
労働単価（円/時間）	⑨ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	1,942	$(①+②) \times ③ \times ④ \times (⑤-⑥) \times (⑦-⑧) \times ⑨$

【漆山地区：船揚場係留】

区分		備考
作業員数（人）	① 3	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）〔3t未満〕	② 70	
避難回数（回）〔整備前〕	③ 10	
避難回数（回）〔整備後〕	④ 0	
作業時間（時間）〔整備前〕	⑤ 2.0	
作業時間（時間）〔整備後〕	⑥ 1	
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	3,887	$① \times ② \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times ⑦$

【荒井地区：他港避難】

区分		備考
作業員数（人）〔乗船〕	① 1	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業員数（人）〔送迎車〕	② 1	
送迎車数（台）	③ 1	
漁船隻数（隻）〔3～5t未満〕	④ 5	
避難回数（回）〔整備前〕	⑤ 10	
避難回数（回）〔整備後〕	⑥ 0	
移動時間（時間）〔整備前〕	⑦ 2.5	
移動時間（時間）〔整備後〕	⑧ 0	
労働単価（円/時間）	⑨ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	462	$(①+②) \times ③ \times ④ \times (⑤-⑥) \times (⑦-⑧) \times ⑨$

【荒井地区：船揚場係留】

区分		備考
作業員数（人）	① 3	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）〔3t未満〕	② 24	
避難回数（回）〔整備前〕	③ 10	
避難回数（回）〔整備後〕	④ 0	
作業時間（時間）〔整備前〕	⑤ 2.0	
作業時間（時間）〔整備後〕	⑥ 1.0	
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	1,332	$① \times ② \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times ⑦$

年間便益額（千円/年）	7,623	
-------------	-------	--

2) 護岸の整備に伴う労務時間の短縮効果

【本港地区：片付け・清掃作業】

区分			備考
作業員数（人）〔整備前〕	①	15	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業員数（人）〔整備後〕	②	0	
作業日数（日）〔整備前〕	③	2	
作業日数（日）〔整備後〕	④	0	
作業時間（時間）〔整備前〕	⑤	4.5	
作業時間（時間）〔整備後〕	⑥	0.0	
越流回数（回）〔整備前〕	⑦	2	
越流回数（回）〔整備後〕	⑧	0	
労働単価（円/時間）	⑨	1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
年間便益額（千円/年）		499	$(①-②) \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times (⑦-⑧) \times ⑨$

3) 防波堤等の整備に伴う労務時間の短縮効果

【漆山地区：片付け・清掃作業】

区分			備考
作業員数（人）〔整備前〕	①	35	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業員数（人）〔整備後〕	②	0	
作業日数（日）〔整備前〕	③	2	
作業日数（日）〔整備後〕	④	0	
作業時間（時間）〔整備前〕	⑤	4.5	
作業時間（時間）〔整備後〕	⑥	0.0	
越流回数（回）〔整備前〕	⑦	2	
越流回数（回）〔整備後〕	⑧	0	
労働単価（円/時間）	⑨	1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		1,166	$(①-②) \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times (⑦-⑧) \times ⑨$

【荒井地区：片付け・清掃作業】

区分			備考
作業員数（人）〔整備前〕	①	20	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業員数（人）〔整備後〕	②	0	
作業日数（日）〔整備前〕	③	2	
作業日数（日）〔整備後〕	④	0	
作業時間（時間）〔整備前〕	⑤	4.5	
作業時間（時間）〔整備後〕	⑥	0.0	
越流回数（回）〔整備前〕	⑦	2	
越流回数（回）〔整備後〕	⑧	0	
労働単価（円/時間）	⑨	1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		666	$(①-②) \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times (⑦-⑧) \times ⑨$

【漆山地区：見廻り作業（5～10t未満）】

区分			備考
作業員数（人）	①	1.5	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）〔5～10t未満〕	②	2	
見廻り時間（時間）〔整備前〕	③	0.75	
見廻り時間（時間）〔整備後〕	④	0.25	
見廻り回数（回）〔整備前〕	⑤	3	
見廻り回数（回）〔整備後〕	⑥	1	
荒天時回数（回）	⑦	10	
労働単価（円/時間）	⑧	1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		55	$① \times ② \times (③-④) \times (⑤-⑥) \times ⑦ \times ⑧$

【漆山地区：見廻り作業（3t未満）】

区分			備考
作業員数（人）	①	1.5	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）[3t未満]	②	70	
見廻り時間（時間）[整備前]	③	0.75	
見廻り時間（時間）[整備後]	④	0.25	
見廻り回数（回）[整備前]	⑤	3	
見廻り回数（回）[整備後]	⑥	1	
荒天時回数（回）	⑦	10	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
労働単価（円/時間）	⑧	1,851	
小計・年間便益額（千円/年）		1,943	
			①×②×(③-④)×(⑤-⑥)×⑦×⑧

【荒井地区：見廻り作業（5～10t未満）】

区分			備考
作業員数（人）	①	1.5	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）[5～10t未満]	②	3	
見廻り時間（時間）[整備前]	③	0.75	
見廻り時間（時間）[整備後]	④	0.25	
見廻り回数（回）[整備前]	⑤	3	
見廻り回数（回）[整備後]	⑥	1	
荒天時回数（回）	⑦	10	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
労働単価（円/時間）	⑧	1,851	
小計・年間便益額（千円/年）		83	
			①×②×(③-④)×(⑤-⑥)×⑦×⑧

【荒井地区：見廻り作業（3t未満）】

区分			備考
作業員数（人）	①	1.5	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）[3t未満]	②	24	
見廻り時間（時間）[整備前]	③	0.75	
見廻り時間（時間）[整備後]	④	0.25	
見廻り回数（回）[整備前]	⑤	3	
見廻り回数（回）[整備後]	⑥	1	
荒天時回数（回）	⑦	10	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
労働単価（円/時間）	⑧	1,851	
小計・年間便益額（千円/年）		666	
			①×②×(③-④)×(⑤-⑥)×⑦×⑧

年間便益額（千円/年）	4,579
-------------	-------

4）船揚場の整備に伴う労務時間の短縮効果

【本港地区】

区分			備考
作業員数（人）	①	3	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数（隻）	②	25	
作業時間（時間）[整備前]	③	0.75	
作業時間（時間）[整備後]	④	0.25	
対象日数（回）	⑤	143	
労働単価（円/時間）	⑥	1,851	
年間便益額（千円/年）		9,925	①×②×(③-④)×⑤×⑥

5) 防波堤等の整備に伴う漁船避難経費の削減

【漆山地区】

区分		備考
送迎車数 (台)	① 1	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数 (隻)	② 21	
移動時間 (時間) [整備前]	③ 1.5	
移動時間 (時間) [整備後]	④ 0	
避難回数 (回) [整備前]	⑤ 10	
避難回数 (回) [整備後]	⑥ 0	
移動距離 (km) [整備前]	⑦ 20	
移動距離 (km) [整備後]	⑧ 0	
1馬力/1時間当り燃料消費量 (1/PS・h) 0.17[kg/PS・h]×0.82[kg/l]	⑨ 0.14	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドラインー参考資料ー (平成28年4月)
1時間当り漁船航行燃料消費量 (1/h) 0.14[1/PS・h]×72[PS]	⑩ 10.08	
1時間当り漁船航行潤滑油消費量 (1/h) 10.08[1/h]×2[%]	⑪ 0.20	
1時間当り漁船航行燃料費 (円/h) 10.08[1/h]×74.9[1/円]×0.20[1/h]×276[1/円]	⑫ 808	
車種別走行経費原単位 (円/km)	⑬ 24.2	
漁船航行燃料費 (千円)	⑭ 255	
車両燃料費 (千円)	⑮ 102	
小計・年間便益額 (千円/年)	357	

【荒井地区】

区分		備考
送迎車数 (台)	① 1	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数 (隻)	② 5	
移動時間 (時間) [整備前]	③ 1.5	
移動時間 (時間) [整備後]	④ 0	
避難回数 (回) [整備前]	⑤ 10	
避難回数 (回) [整備後]	⑥ 0	
移動距離 (km) [整備前]	⑦ 20	
移動距離 (km) [整備後]	⑧ 0	
1馬力/1時間当り燃料消費量 (1/PS・h) 0.17[kg/PS・h]×0.82[kg/l]	⑨ 0.14	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドラインー参考資料ー (平成28年4月)
1時間当り漁船航行燃料消費量 (1/h) 0.14[1/PS・h]×72[PS]	⑩ 10.08	
1時間当り漁船航行潤滑油消費量 (1/h) 10.08[1/h]×2[%]	⑪ 0.20	
1時間当り漁船航行燃料費 (円/h) 10.08[1/h]×74.9[1/円]×0.20[1/h]×276[1/円]	⑫ 808	
車種別走行経費原単位 (円/km)	⑬ 24.2	
漁船航行燃料費 (千円)	⑭ 61	
車両燃料費 (千円)	⑮ 24	
小計・年間便益額 (千円/年)	85	

年間便益額 (千円/年)	442	
--------------	-----	--

6) 防波堤等の整備に伴う漁船耐用年数の延長

【漆山地区】

区分			備考
漁船隻数（隻）	①	72	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員
漁船の総トン数（t）	②	72.7	調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船の耐用年数（年）〔漁港施設整備前〕	③	7	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
漁船の耐用年数（年）〔漁港施設整備後〕	④	10.17	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
漁船建造費（千円/t）	⑤	2,992	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
小計・年間便益額（千円/年）		9,685	②×(1/③-1/④)×⑤

【荒井地区】

区分			備考
漁船隻数（隻）	①	27	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員
漁船の総トン数（t）	②	44.2	調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船の耐用年数（年）〔漁港施設整備前〕	③	7	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
漁船の耐用年数（年）〔漁港施設整備後〕	④	10.17	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
漁船建造費（千円/t）	⑤	2,992	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－（平成28年4月）
小計・年間便益額（千円/年）		5,888	②×(1/③-1/④)×⑤

年間便益額（千円/年）	15,573
-------------	--------

(2) 漁獲機会の増大効果

1) 防波堤等の整備に伴う出漁可能回数の増加効果

【本港地区】

区分			備考
出漁日数（日）〔整備前〕	①	143	調査日：平成29年10月26日
出漁日数（日）〔整備後〕	②	153	調査場所：長井町漁業協同組合
年間陸揚量（t）	③	184	調査対象者：漁業協同組合職員
漁獲物の平均単価（千円/t）	④	730	調査実施者：横須賀市職員
経費率	⑤	0.41	調査実施方法：ヒアリング調査 平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		5,541	(①-②)×③/①×④×(1-⑤)

【漆山地区】

区分			備考
出漁日数（日）〔整備前〕	①	143	調査日：平成29年10月26日
出漁日数（日）〔整備後〕	②	153	調査場所：長井町漁業協同組合
年間陸揚量（t）	③	258	調査対象者：漁業協同組合職員
漁獲物の平均単価（千円/t）	④	730	調査実施者：横須賀市職員
経費率	⑤	0.41	調査実施方法：ヒアリング調査 平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		7,770	(①-②)×③/①×④×(1-⑤)

【荒井地区】

区分			備考
出漁日数（日）〔整備前〕	①	143	調査日：平成29年10月26日
出漁日数（日）〔整備後〕	②	153	調査場所：長井町漁業協同組合
年間陸揚量（t）	③	110	調査対象者：漁業協同組合職員
漁獲物の平均単価（千円/t）	④	730	調査実施者：横須賀市職員
経費率	⑤	0.41	調査実施方法：ヒアリング調査 平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）		3,313	(①-②)×③/①×④×(1-⑤)

年間便益額（千円/年）	16,624
-------------	--------

(3) 漁業就業者の労働環境改善効果

1) 漁港施設整備による労働環境の改善

【本港地区：船揚場の改良による安全性の向上】

区分		備考
作業員数（人）	① 75	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象日数（日）	② 143	
平均作業時間（時間）〔整備前〕	③ 0.75	
平均作業時間（時間）〔整備後〕	④ 0.25	
作業状況の基準値〔整備前〕	⑤ 1.113	作業Bランク
作業状況の基準値〔整備後〕	⑥ 1.000	作業Cランク
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	560	①×②×④×（⑤-⑥）×⑦

【漆山地区：外郭施設整備による避難作業時の安全性の向上(3t未満漁船)】

区分		備考
作業員数（人）	① 27	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象荒天日数（日）	② 10	
平均作業時間（時間）〔整備前〕	③ 2	
平均作業時間（時間）〔整備後〕	④ 1	
作業状況の基準値〔整備前〕	⑤ 1.113	作業Bランク
作業状況の基準値〔整備後〕	⑥ 1.000	作業Cランク
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	56	①×②×④×（⑤-⑥）×⑦

【漆山地区：外郭施設整備による避難作業時の安全性の向上(5～10t未満漁船)】

区分		備考
作業員数（人）	① 4	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象荒天日数（日）	② 10	
平均作業時間（時間）〔整備前〕	③ 1.0	
平均作業時間（時間）〔整備後〕	④ 0.5	
作業状況の基準値〔整備前〕	⑤ 1.113	作業Bランク
作業状況の基準値〔整備後〕	⑥ 1.000	作業Cランク
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	4	①×②×④×（⑤-⑥）×⑦

【荒井地区：外郭施設整備による避難作業時の安全性の向上(3t未満漁船)】

区分		備考
作業員数（人）	① 19	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象荒天日数（日）	② 10	
平均作業時間（時間）〔整備前〕	③ 2	
平均作業時間（時間）〔整備後〕	④ 1	
作業状況の基準値〔整備前〕	⑤ 1.113	作業Bランク
作業状況の基準値〔整備後〕	⑥ 1.000	作業Cランク
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	39	①×②×④×（⑤-⑥）×⑦

【荒井地区：外郭施設整備による避難作業時の安全性の向上(5～10t未満漁船)】

区分		備考
作業員数（人）	① 6	調査日：平成29年10月26日 調査場所：長井町漁業協同組合 調査対象者：漁業協同組合職員 調査実施者：横須賀市職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象荒天日数（日）	② 10	
平均作業時間（時間）〔整備前〕	③ 1.0	
平均作業時間（時間）〔整備後〕	④ 0.5	
作業状況の基準値〔整備前〕	⑤ 1.113	作業Bランク
作業状況の基準値〔整備後〕	⑥ 1.000	作業Cランク
労働単価（円/時間）	⑦ 1,851	平成28年漁業経営調査報告書（H29.12）
小計・年間便益額（千円/年）	6	①×②×④×(⑤-⑥)×⑦
年間便益額（千円/年）	665	

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

○労働環境評価チェックシート

1 本港地区

① 船揚場における漁船の上下架作業

【整備前】

船揚場の斜路に段差が生じているため、慎重に滑材等で高さを調整しながら漁船を引き揚げており、作業は船底を注視しながらとなるため、作業時に転倒や挟まれなどの危険性が生じている。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2	○	直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		期中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		3		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1			
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			7		→Bランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

【整備後】

船揚場の整備により段差が解消され、スムーズな漁船の揚げ降ろしが可能となり、作業の安全性が向上する。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0	○	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		期中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		1		
	作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3		風雨、波浪の飛沫等	
c. 風雨等の影響を受ける場合がある		1	○		
d. 当該地域における標準的な作業環境である		0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3		長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1	○		
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			3		→Cランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

2 漆山地区

① 台風等激浪時の漁船固定作業

【整備前】

5～10t未満漁船は泊地内でうねり等波の影響を受けながらチェーン、ロープで船を固定する作業で海中への転落の危険性がある。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○	
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1		軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		3		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3	○	風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1			
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1			
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			9		→Bランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

【整備後】

港内静穏度が向上するため海中への転落等の危険性が低くなり、安全性が向上する。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0	○	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
危険性 小計		1			
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3		長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1	○		
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			3		→Cランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

② 台風等激浪時の船揚場上方への移動避難作業(3t未満の漁船)

【整備前】

斜路を含む船の引き揚げ作業中における転倒の危険性や長時間にわたる厳重な漁船の固定作業があり、重労働である。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2	○	直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		3		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1			
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			7		→Bランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

【整備後】

過剰な船の引き揚げ等、危険性を伴う重労働が解消され、安全性が向上する。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0	○	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		1		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3		長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1	○		
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			3		→Cランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

3 荒井地区

① 台風等激浪時の漁船固定作業

【整備前】

5～10t未満漁船は泊地内でうねり等波の影響を受けながらチェーン、ロープで船を固定する作業で海中への転落の危険性がある。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1	○	
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1		軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		3		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3	○	風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1			
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1			
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			9		→Bランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

【整備後】

港内静穏度が向上するため海中への転落等の危険性が低くなり、安全性が向上する。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0	○	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
危険性 小計		1			
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3		長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1	○		
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			3		→Cランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

② 台風等激浪時の船揚場上方への移動避難作業(3t未満の漁船)

【整備前】

斜路を含む船の引き揚げ作業中における転倒の危険性や長時間にわたる厳重な漁船の固定作業があり、重労働である。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2	○	直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		3		
作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	
	b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	3		風雨、波浪の飛沫等	
	c. 風雨等の影響を受ける場合がある	1	○		
	d. 当該地域における標準的な作業環境である	0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○	長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1			
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			7		→Bランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント

【整備後】

過剰な船の引き揚げ等、危険性を伴う重労働が解消され、安全性が向上する。

評価指標			ポイント	チェック	根拠(評価の目安)
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気等が頻発している	3		ほぼ毎年のように事故や病気が発生
		b. 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2		直近5年程度での発生がある
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1		
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0	○	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3		海中への転落、漁港施設内での交通事故等
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2		転倒、資材の下敷き、落下物の危険等
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いけが	1	○	軽い打撲等
		d. 事故等が発生する危険性は低い	0		
	危険性 小計		1		
	作業環境	a. 極めて過酷な作業環境である	5		酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等
b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である		3		風雨、波浪の飛沫等	
c. 風雨等の影響を受ける場合がある		1	○		
d. 当該地域における標準的な作業環境である		0			
重労働性	a. 肉体的負担が極めて大きい作業	5		人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	
	b. 肉体的負担が比較的大きい作業	3		長時間の同じ姿勢での作業等	
	c. 肉体的負担がある作業	1	○		
	d. 通常の作業と同程度の肉体的負担	0			
評価ポイント 計			3		→Cランク

Aランクの条件: 評価ポイント計16～13ポイント

Bランクの条件: 評価ポイント計12～6ポイント

Cランクの条件: 評価ポイント計 5～0ポイント